



新年早々、以前の事務所の水道橋の駅近くにある三崎神社にて参拝。ここ最近では食べてばかりで運動の頻度、量が減って体力の衰えを感じる日々です。今年はぜひ運動量を増やし、体力を向上させ健康な1年にするのが目標です。もっと勉強もして知識も増やしたいですね。（志戸岡）

子ども・子育て支援金について

子ども・子育て支援金制度は、少子化対策のための特定財源として、**令和8年度から10年度にかけて段階的に導入**されます。

◆開始時期と徴収方法

令和8年4月分(5月末納付分)より、労使折半で子ども・子育て支援金を負担します。医療保険料と同様、**毎月の賃金ならびに賞与から徴収**されることになっており、産休中や育休中の場合は免除されます。

◆支援金率と年収別の負担額

負担額は、標準報酬月額ならびに標準賞与額に支援金率を乗じて求められます。支援金率は国が一律で定めることとされており、**0.24%**から段階的に引き上げられ、令和10年度に**0.4%**になる予定です。被保険者一人当たりの平均負担額は、令和8年度では450円と見込まれています。

◆給与明細への表示

こども家庭庁の事務連絡(2025.6.18)において、被保険者から保険料を徴収する際に保険料額の内訳として支援金額を示すことは法令上の義務とはなっていませんが表示することが望ましいでしょう。

【全国健康保険協会「子ども・子育て支援金について」】

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/~media/Files/shared/direction/dai138kai/2025112814.pdf>

失業保険の申請サポートをめぐるトラブル～国民生活センター・東京労働局が注意喚起

国民生活センターは、「失業保険の受給額や受給期間が増える」とうたう申請サポートに関する相談が増えていくとして、注意を呼びかけました。失業保険は、ハローワーク(公共職業安定所)での申請と審査に基づき支給される**公的支援制度**であり、**外部事業者が給付内容を増やせるものではありません**。

◆過度な宣伝と解約をめぐるトラブルが多発

全国の消費生活センターには、「サポートを依頼すれば受給額が増えると思ったが実際には増えなかった」「途中で解約を申し出たところ**高額な違約金を請求された**」といった相談が寄せられています。申請サポート契約の中には、広告や勧誘の段階で過度な期待を持たせる表現が使われているケースもあり、契約内容の理解不足によるトラブルが増えています。

◆不正受給を促す悪質な事例も

さらに**深刻なのは、不正受給を促すかのような誘導が見られる点**です。実際にはメンタル不調がないにもかかわらず「うつ病と診断されるためのマニュアル」が送られてくるなど、虚偽の申請を促すケースが報告されています。不正受給が行われた場合、受給者本人が返還・納付を命じられるほか、**詐欺罪などの刑事罰**の対象となる可能性があります。事実と異なる申告を求められた場合は、絶対に応じてはいけません。

【国民生活センター「失業保険の給付額等を増やすことができるとうたう申請サポートに注意」】

https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20251203_1.pdf

ハラスメント相談窓口が「あるのに機能していない」という矛盾

厚生労働省の実態調査によれば、パワハラ相談窓口を「設置している」という企業は**全体の7割以上**に達していることをご存知でしょうか？一方で、実際にパワハラを経験した労働者のうち、約35%以上が「相談窓口には相談していない」という実態が明らかになっています。さらに驚くべきことに、**相談があったとしても、企業が「何もしなかった」と判断されるケースがパワハラで53.2%にも上っている**のです。窓口を設置することは、法律上のコンプライアンス要件を満たします。しかし、「窓口が存在すること」と「実際に紛争を解決すること」は全く別の次元にあるという点は理解しておく必要があります。

◆「見えないプロセスへの信頼」が解決を左右する

被害者が相談窓口を利用するかどうかを決める際、最も重視するのは「相談しやすさ」ではなく、**「相談した後、本当に解決するのか」「訴えが真摯に受け止められるのか」**という見えないプロセスへの信頼だと考えられます。このプロセスが不透明だと、被害者は窓口があっても利用を躊躇します。結果として問題は潜在化し、職場環境は悪化し、やがて労働紛争や訴訟へと発展するリスクが高まります。

【厚生労働省「職場のハラスメントに関する実態調査 結果概要」】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11909000/001259093.pdf>

『瞬時に「言語化できる人」が、うまくいく。』 荒木俊哉(著)

コミュニケーションは「何を言うか」と「どう言うか」。そしてこの「何を言うか」が言語化能力。言語化能力がないのに、「どう言うか」の伝え方を学んでも上手く伝えることができない。この考え方は腹落ちしました。最近ではChatGPTなどの生成AIでこの「何を言うか」をAIに頼る人も多いでしょう。この言語化能力を鍛えるために「頭に思いついたこと」をA4一枚の「メモ」に素早く書く、というトレーニングをこの本では推奨しています。地道なトレーニングで言語化能力を鍛えるこのやり方は、私が独立以降いままでも続けているメルマガにも通じる場合があります。毎週続けたメルマガは最新号で595号です。今はもう習慣になったこのメルマガも、言語化能力を鍛えるために始めたものです。この習慣はこれからも続けていきたいと思えます。

